

百舌鳥・古市古墳群を活用した地域活性化ビジョン〔概要版〕

第1章 策定の目的と位置付け

【目的】

大阪府、堺市、羽曳野市及び藤井寺市は、世界文化遺産登録をめざし、古墳群の保存・継承に向けた検討や、情報発信・魅力創出に取り組んでいます。このことを契機とした、百舌鳥・古市古墳群を活かした地域の活性化に向け、行政、地元住民、民間事業者、NPO等が取り組みの目標や方向性を共有し、各々が主体的に取り組むことをめざします。

【位置づけ】

府及び3市の総合計画・まちづくり・景観計画と整合を図ります。

第2章 百舌鳥・古市古墳群を取り巻く状況

【歴史的背景】

古墳時代 : 巨大古墳が集中して築造
 飛鳥～奈良時代 : 権威や権力のシンボルが古墳から寺院へ。
 平安～室町時代 : 古墳の濠がため池に使用され始め、城や砦としても利用
 江戸時代 : 古墳の多くが村の共有財産として薪木利用
 明治以降 : 巨大古墳の多くは国が管理

【古墳群の立地と土地利用の概要】

古墳群周辺は主に住宅地利用（幹線道路・駅周辺は商業利用）
 大規模公園（百舌鳥）や農地（古市）が点在

【社会的背景】

人口：各市総じて少子高齢化・世帯の細分化が進行
 交通：大阪都心からの鉄道アクセスが良好（40分程度）
 阪神高速や西名阪のインターチェンジがあり、広域アクセスも良好
 産業：百舌鳥・古市古墳群をはじめ、近隣に歴史的文化遺産が多数
 地場の農産物から生まれた特産品や名品も多い



堺刃物（堺市）



はびきの軽トラ市（羽曳野市）



葛井寺（藤井寺市）

【活性化に向けた地域の現状整理】

- 豊かな地域資源
- 良好な交通アクセス
- 少子高齢化の進行
- 地域の結びつきの希薄化
- 個性豊かな空間の減少

第3章 将来像と基本方針・施策の分類

【将来像】

古墳群を人類の宝として次世代へと引き継ぎ、“地域の人々が誇りを持ち、住みたいと感じるまち”とするとともに“世界中が興味を持つまち”“訪れる人に愛されるまち”を実現し、地域のにぎわいへとつなげていくため、地域の将来像を次のように定めます。

いにしえから現代、そして未来へ

世界に誇る百舌鳥・古市古墳群とともに輝くまち

古墳群の比類のない価値や魅力を守り活かすことで“都市空間”“地域魅力”“人”が輝くまち、“世界から注目される輝くまち”をめざします。

【基本方針と施策の分類】

将来像の実現に向けた3つの基本方針を設定し、地域の活性化に向けた施策を分類します。

『古墳群と連なる』 みどりや水のうるおいのあるまちの形成

ときを超えて地域と共存してきた古墳群を適切に保存し、未来へと継承していくため、古墳群の価値や歴史を尊重するとともに、それらと調和するまちとして、景観に配慮し、みどりや水のうるおいあるまちづくりを推進します。

〔施策の分類〕 ①保存管理 ②景観形成 ③みどりの充実

『古墳群に親しむ』 快適で人にやさしいまちづくりの推進

古墳群の魅力にふれ、古墳群に親しみやすい受入体制を整えるとともに、便利で快適な交通環境を整えることで、国内外から訪れる人にとっても住む人にとっても便利で快適な、人にやさしいまちづくりを推進します。

〔施策の分類〕 ④受入体制の整備 ⑤案内の充実

『古墳群を楽しむ』 新たな魅力とにぎわいの創出

古墳群とその地域の魅力を発信するとともに、周辺の歴史文化資産と連携することなどにより、新たなまちの魅力とにぎわいを創出します。

〔施策の分類〕 ⑥情報発信 ⑦誘客の展開 ⑧広域連携の強化

第4章 施策の展開

今後取り組むべき方向性と現時点で考えられる取り組み例を示します。

①「保存管理」の方向性

- 古墳群を一体的に捉えた保存管理を行います。
- 地域全体で古墳とその周辺環境の調和を保ち、未来へつないでいきます。
- 古墳の価値を学ぶことを通じ、将来にわたり古墳を守る気持ちを育てます。

主な取り組み例

【古墳の保全・管理】



- ・ 包括的な保存管理計画の作成と同計画に基づく適切な保全
- ・ 古墳の濠の水質の保持・改善
- ・ 史跡等における周辺環境と調和した整備
- ・ 古墳の保全活動費用の確保

【地域と一体となった古墳を守る活動】



- ・ 地域ボランティアによる清掃・美化活動の拡充

【古墳の価値を学ぶ】



- ・ 古墳群の歴史的価値を学ぶ機会の設定（古墳学習、講演会、シンポジウムなど）

②「景観形成」の方向性

- 古墳群のある地域としてふさわしい景観の形成を図ります。（周辺建築物等の高さ、形態・意匠、屋外広告物等のルール設定など）

主な取り組み例

【古墳周辺の景観への配慮】



- ・ 古墳の眺望景観に配慮した周辺建築物等の高さの制限
- ・ 大規模屋外広告物に対する許可基準等の見直し

【古墳と調和したまちなみへの誘導】



- ・ 歴史的景観、自然と調和するまちなみの形成

③「みどりの充実」の方向性

- 古墳の周辺に広がるみどりにより、うるおいのあるまちの形成を進めます。

主な取り組み例

【道路・公園など公共用地の緑化】



- ・ 道路・公園におけるみどりの充実
- ・ 古墳周辺でのみどり空間の創出

【民有地の緑化】



- ・ 公共用地の緑化と合わせた民有地の緑化

【農地・ため池の景観保全】



- ・ みどりや水辺の保全

④「受入体制の整備」の方向性

- 来訪者がスムーズに古墳を巡ることができるよう、受入体制や周遊手段の充実を図ります。
- 案内施設や便益施設の充実を図り、来訪者をおもてなしします。

主な取り組み例

【アクセスルートの整備】



- ・ 周遊ルート・周遊方法の設定
- ・ 来訪者に分かりやすい誘導・案内
- ・ 電車・バスでの車内案内等の充実

【駅舎・駅周辺の整備】



- ・ 古墳群のあるまちにふさわしい駅舎・駅周辺の整備

【多様な周遊手段の整備】



- ・ 点在する古墳を効率的に巡る交通手段の整備
- ・ 駐輪場の整備や市域を超えたレンタサイクルの連携

【観光案内の充実】



- ・ 多様なニーズに対応したきめ細やかな案内サービスの提供

【便益施設の整備・充実】



- ・ 駐車場、トイレ、休憩所等便益施設の整備・改善など

⑤「案内の充実」の方向性

- 案内施設や案内ガイドを充実し、来訪者に古墳群の歴史的な価値や魅力を感じていただけることをめざします。
- 誰もが気軽に古墳に対する理解を深めることができるよう、情報発信ツールの多様化や多言語化を進めます。

主な取り組み例

【ガイダンス機能の充実】



- ・ガイダンス施設の整備及び関連歴史文化施設の充実

【ボランティアガイドの育成・充実】



- ・ボランティアガイドの育成、案内内容の充実

【多様な情報発信ツールによる案内の充実】



- ・ガイドマップの作成・配布
- ・携帯端末を使った案内システムの充実
- ・情報発信ツールの多言語化

⑥「情報発信」の方向性

- 古墳群や地域にある他の歴史文化資産の価値や魅力をより多くの人に理解してもらえるよう、国内外へ情報発信していきます。
- 「百舌鳥・古市古墳群ブランド」のイメージを構築するなど、多様な方法で百舌鳥・古市古墳群の知名度を国内外で高めていきます。

主な取り組み例

【古墳群と地域魅力の情報発信】



- ・さまざまなツールを活用した情報発信
- ・イベントや催し物等における積極的な情報発信

【ブランドイメージの構築】



- ・ブランドイメージの構築とそれに沿った取り組み

⑦「誘客の展開」の方向性

- 古墳と地域の歴史文化資産を活かした魅力とにぎわいの創出など、人を惹きつける取り組みを行います。
- 古墳群を活かした土産品や地域の特産品などにより、地域の魅力向上と情報発信につなげます。

主な取り組み例

【地域協働イベントの開催】



- ・来訪者が楽しみながら古墳や歴史文化資産等に理解を深めることを目的としたイベントの開催
- ・地域と一体となったイベントの開催

【周遊コースの魅力向上】



- ・ウォーキングコースやサイクリングコースの設定
- ・古墳を見ながらくつろぐことのできる空間の創出

【何度も訪れたいくなる仕掛けづくり】



- ・ターゲットやテーマに応じた多様な観光プランの企画・実施
- ・記念日の設定とそれに合わせた恒例イベントの開催
- ・近隣大学との連携及び学生主体で運営する店舗等の誘致
- ・古墳をテーマとしたコンクールの開催

【地域特産品や観光商品の開発】



- ・「百舌鳥・古市古墳群ブランド」としての特産品の育成
- ・都心部の集客拠点における地域物産展の開催等
- ・古墳関連グッズ・フードメニューの開発・充実

⑧「広域連携の強化」の方向性

- 古墳群周辺の観光資源と連携し、地域の魅力を効果的に上げていきます。
- 近隣の世界遺産との連携により、古墳周辺の観光資源とともに古墳群の魅力を高めていきます。

主な取り組み例

【周辺の観光資源との連携（環濠都市地域、寺内町、街道等）】



- ・ 古墳群周辺の歴史文化遺産や歴史街道との連携
- ・ 博物館等文化施設との連携
- ・ 周遊ルートを一層魅力的にするようなツアーの企画

【関西の世界遺産との連携】



- ・ 関西の世界遺産（吉野、高野山等）との連携

第5章 ビジョンの実現に向けて

本ビジョンが掲げる将来像を実現するためには、多くの人が古墳群の存在や価値を知り、守り、その価値を将来にわたって引き継いでいこうとする機運の盛り上がりが必要です。

そのためには、行政だけでなく、地域住民、民間事業者、NPO等がビジョンの将来像や方針を共有し、各々がそれぞれの役割を果たしながら、取り組みを進めていかなければなりません。

行政や地域住民、民間事業者、NPO等が取り組みを行うにあたっては、各主体が「継続的」に、相互に「連携」や「ネットワーク化」を図り、「拡げて」いくことが重要です。また、「地域住民の参加」や「来訪者との交流」という観点も欠かせません。

そうすることで、住んでいる人だけでなく、来訪者をはじめ、多くの人たちに愛される古墳群となり、「世界に誇る百舌鳥・古市古墳群とともに輝くまち」が実現すると思えます。

ビジョン実現に向けた概念図

